



2024年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2023年8月14日

上場会社名 株式会社エクサウィザーズ 上場取引所 東
コード番号 4259 URL <https://exawizards.com/>
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 春田 真
問合せ先責任者 (役職名) 執行役員コーポレート統括部長 (氏名) 前川 智明 TEL 03-6453-0510
四半期報告書提出予定日 2023年8月14日 配当支払開始予定日 ー
四半期決算補足説明資料作成の有無：有
四半期決算説明会開催の有無：有

(百万円未満切捨て)

1. 2024年3月期第1四半期の連結業績（2023年4月1日～2023年6月30日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年3月期第1四半期	1,302	8.9	△348	-	△352	-	△400	-
2023年3月期第1四半期	1,196	-	△237	-	△236	-	△223	-

(注) 包括利益 2024年3月期第1四半期 △408百万円 (-%) 2023年3月期第1四半期 △227百万円 (-%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年3月期第1四半期	△4.90	-
2023年3月期第1四半期	△2.77	-

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式は存在するものの、1株当たり四半期純損失であるため、記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2024年3月期第1四半期	8,598	5,315	61.0
2023年3月期	7,939	6,618	82.4

(参考) 自己資本 2024年3月期第1四半期 5,242百万円 2023年3月期 6,540百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年3月期	-	0.00	-	0.00	0.00
2024年3月期	-	-	-	-	-
2024年3月期（予想）	-	0.00	-	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2024年3月期の連結業績予想（2023年4月1日～2024年3月31日）

（％表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		EBITDA	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
通期	8,500	52.0	△290	-	600	-

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：有

※ 注記事項

（1）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：有

（2）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

（3）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

（4）発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2024年3月期1Q	83,766,200株	2023年3月期	83,383,800株
② 期末自己株式数	2024年3月期1Q	2,586,200株	2023年3月期	100,300株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2024年3月期1Q	83,693,800株	2023年3月期1Q	80,838,800株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(表示方法の変更)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)	9
(セグメント情報等)	10
(企業結合等関係)	12
(重要な後発事象)	13

1. 当四半期決算に関する定性的情報

文中の将来に関する事項は、当四半期連結累計期間の末日現在において判断したものです。

(1) 経営成績に関する説明

当社グループは、「AIを用いた社会課題解決を通じて、幸せな社会を実現する」とのミッションの下、AIプラットフォーム事業においては、顧客課題解決を通じて、様々な業界の産業・社会課題を発見し、その革新を実現し続けることをめざして事業を推進しています。また、AIプロダクト事業においては、広範な顧客向けに、最小限の追加調整で即座に業務で活用可能なAIソフトウェアを提供し、社会課題を解決することをめざして事業を推進しています。

(経営成績)

売上高

当第1四半期連結累計期間における売上高は1,302百万円（前年同期比+8.9%）となりました。これは主に、AIプラットフォーム事業において顧客数が増加したこと、及びAIプロダクト事業で当社サービスの導入数が増加したことによるものです。

売上原価、売上総利益

当第1四半期連結累計期間における売上原価は661百万円（前年同期比+23.5%）となりました。これは主に、売上原価となる人件費等及びソフトウェアの減価償却費が増加したことによるものです。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の売上総利益は641百万円（前年同期比-3.0%）、売上総利益率は49.2%（前年同期比-6.0pt）となりました。

販売費及び一般管理費、営業損益

当第1四半期連結累計期間の販売費及び一般管理費は989百万円（前年同期比+10.2%）となりました。これは主に販管費となる人件費等が増加したことによるものです。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の営業損失は348百万円（前年同期は237百万円の営業損失）となりました。

営業外損益、経常損益

当第1四半期連結累計期間の営業外収益は0百万円（前年同期は1百万円）、営業外費用は4百万円（前年同期は0百万円）となりました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の経常損失は352百万円（前年同期は236百万円の経常損失）となりました。

特別損益、親会社株主に帰属する当期純損益

当第1四半期連結累計期間の税金等調整前四半期純損失は394百万円（前年同期は222百万円の税金等調整前四半期純損失）となりました。これは、当第1四半期連結累計期間に当社の在外研究開発拠点の清算（2023年5月11日開示「子会社の解散に関するお知らせ」参照）に伴う関係会社整理損として、特別損失を42百万円計上したことによるものです。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の親会社株主に帰属する四半期純損失は400百万円（前年同期は223百万円の親会社株主に帰属する四半期純損失）となりました。

(セグメント業績)

当第1四半期連結累計期間よりセグメント業績の算定方法に変更があります。詳細は「2 四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(セグメント情報等)」をご確認ください。

以下の記述については、仮に前第1四半期連結累計期間においても当第1四半期連結累計期間と同様のセグメント業績の算定を行った場合の参考数値を前第1四半期連結累計期間の比較基準業績とみなし、差異について記載しています。

AIプラットフォーム事業

当第1四半期連結累計期間においては、引き続きAIプロジェクトによるイノベーション創出を多数の大手企業と取り組んでいます。AI・DX支援に関する企業の強いニーズも後押しとなり、取引社数が増加しました。

この結果、売上高は1,119百万円(前年同期比+5.9%)、売上総利益は593百万円(前年同期比-4.6%)、売上総利益率は53.0%(前年同期比-5.8pt)、セグメント利益は220百万円(前年同期比-13.9%)、売上高に占める長期継続顧客売上(注)の比率は73.5%となりました。

(注) AIプラットフォーム事業において、当社が4四半期以上連続で契約している顧客

AIプロダクト事業

当第1四半期連結累計期間においては、既存プロダクトの販売拡大に加え、AIプラットフォーム事業によって得られた知見をもとに、生成系AI等の活用をはじめとした新たなサービス開発にも取り組んでまいりました。

DX AIプロダクト群では、企業のDX人材の発掘・育成のための「exaBase DXアセスメント&ラーニング」を中心に導入企業数が増加しました。

ソーシャルAIプロダクト群では、「CareWiz トルト」がパートナー企業との協業により販売拡大が進みました。

その中で、これらの需要に応じていくための採用にかかる採用費や広告宣伝費等が増加しました。

この結果、売上高は183百万円(前年同期比+31.8%)、売上総利益は53百万円(前年同期比+39.1%)、売上総利益率は29.3%(前年同期比+1.5pt)、セグメント損失は159百万円(前年同期は127百万円のセグメント損失)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

資産

当第1四半期連結会計期間末における資産合計は8,598百万円となり、前連結会計年度末に比べ658百万円増加いたしました。これは主に、のれんや投資その他資産がそれぞれ2,271百万円、267百万円増加した一方で、現金及び預金が2,205百万円減少したことによるものであります。

負債

当第1四半期連結会計期間末における負債合計は3,282百万円となり、前連結会計年度末に比べ1,961百万円増加いたしました。これは主に、短期借入金が1,000百万円増加したことによるものであります。

純資産

当第1四半期連結会計期間末における純資産合計は5,315百万円となり、前連結会計年度末に比べ1,302百万円減少いたしました。これは主に、自己株式を取得したことによる自己株式924百万円の増加(純資産の減少)や利益剰余金が400百万円減少したことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

足元の業績動向および株式会社スタジアムの子会社化(2023年6月30日開示「株式会社スタジアムの株式の取得(子会社化)に関するお知らせ」を参照)の影響等を踏まえ、2023年5月11日に開示した当期連結業績予想を以下のように変更します。

	売上高	営業利益	EBITDA
	百万円	百万円	百万円
前回発表予想 (A) (2023年5月11日時点)	7,000	△370	-
今回修正予想 (B) (2023年8月14日時点)	8,500	△290	600
増減額 (B - A)	1,500	80	-
増減率 (%)	21.4%	-	-
(参考) 前期実績 (2023年3月期)	5,591	△378	72

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2023年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	5,231	3,025
売掛金及び契約資産	1,032	902
その他	108	413
流動資産合計	6,372	4,342
固定資産		
有形固定資産	165	226
無形固定資産		
のれん	160	2,431
ソフトウェア	954	1,043
その他	0	0
無形固定資産合計	1,114	3,475
投資その他の資産		
投資有価証券	-	181
その他	287	373
投資その他の資産合計	287	554
固定資産	1,567	4,256
資産合計	7,939	8,598
負債の部		
流動負債		
短期借入金	-	1,000
1年内返済予定の長期借入金	10	44
未払金	225	496
未払費用	304	401
未払法人税等	48	78
契約負債	110	368
賞与引当金	15	136
その他	200	294
流動負債合計	914	2,821
固定負債		
長期借入金	300	352
退職給付に係る負債	66	60
資産除去債務	39	48
固定負債合計	406	461
負債合計	1,321	3,282

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2023年6月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,337	2,351
資本剰余金	4,487	4,500
利益剰余金	△249	△650
自己株式	△34	△959
株主資本合計	6,540	5,242
新株予約権	3	5
非支配株主持分	75	67
純資産合計	6,618	5,315
負債純資産合計	7,939	8,598

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自2022年4月1日 至2022年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自2023年4月1日 至2023年6月30日)
売上高	1,196	1,302
売上原価	535	661
売上総利益	660	641
販売費及び一般管理費	897	989
営業損失(△)	△237	△348
営業外収益		
受取利息及び配当金	0	0
助成金収入	0	0
その他	0	0
営業外収益合計	1	0
営業外費用		
支払利息	0	1
為替差損	0	0
支払手数料	-	3
営業外費用合計	0	4
経常損失(△)	△236	△352
特別利益		
事業譲渡益	13	-
特別利益合計	13	-
特別損失		
関係会社整理損	-	42
特別損失合計	-	42
税金等調整前四半期純損失(△)	△222	△394
法人税、住民税及び事業税	5	13
法人税等調整額	△0	△0
法人税等合計	4	13
四半期純損失(△)	△227	△408
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△4	△7
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△223	△400

(四半期連結包括利益計算書)
(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自2022年4月1日 至2022年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自2023年4月1日 至2023年6月30日)
四半期純損失(△)	△227	△408
四半期包括利益	△227	△408
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△223	△400
非支配株主に係る四半期包括利益	△4	△7

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(表示方法の変更)

(連結貸借対照表)

前連結会計年度において、流動負債の「その他」に含めておりました「賞与引当金」は、金額的重要性が増したため、当第1四半期連結会計期間においては独立掲記しております。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の連結財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前連結会計年度の連結貸借対照表において、流動負債の「その他」に表示しておりました215百万円は、「賞与引当金」15百万円、「その他」200百万円として組み替えております。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、2023年3月22日開催の取締役会決議に基づき、当第1四半期連結累計期間において自己株式2,485,900株の取得を行いました。この結果、当第1四半期連結累計期間において、自己株式が924百万円増加し、当第1四半期連結会計期間末において、自己株式が959百万円となっております。

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

連結範囲の重要な変更

当第1四半期連結会計期間において、株式会社スタジアムの全株式を取得したため、連結の範囲に含めておりません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自2022年4月1日 至2022年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			調整額(注)1	四半期連結損益計算書計上額(注)2
	AIプラットフォーム事業	AIプロダクト事業	計		
売上高					
顧客との契約から生じる収益	1,057	138	1,196	—	1,196
外部顧客への売上高	1,057	138	1,196	—	1,196
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	1,057	138	1,196	—	1,196
セグメント利益又は損失(△)	255	△127	128	△365	△237

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額は、セグメント共通経費であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と一致しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

Ⅱ 当第1四半期連結累計期間（自2023年4月1日 至2023年6月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			調整額(注)1	四半期連結損益計算書計上額(注)2
	AIプラットフォーム事業	AIプロダクト事業	計		
売上高					
顧客との契約から生じる収益	1,119	183	1,302	—	1,302
外部顧客への売上高	1,119	183	1,302	—	1,302
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	1,119	183	1,302	—	1,302
セグメント利益又は損失(△)	220	△159	60	△409	△348

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額は、セグメント共通経費であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と一致しております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

(セグメント共通経費の区分変更)

従来、報告セグメントに含めていた間接経費を当第1四半期連結会計期間より調整額に含めることといたしました。なお、前第1四半期連結累計期間のセグメント情報は、変更後の区分方法により作成しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

当第1四半期連結会計期間に、株式会社スタジアムの株式を取得し、連結範囲に含めたことにより、のれんが2,284百万円発生しております。なお、当該のれんの金額は、当第1四半期連結会計期間末において取得原価の配分が完了していないため、暫定的な会計処理によって算定された金額であります。また、同社の連結子会社化に伴い、報告セグメントの見直しを検討してまいります。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

(企業結合等関係)

(取得による企業結合)

当社は、2023年6月30日開催の臨時取締役会において、株式会社スタジアムの株式の100%を取得し、子会社化することを決議致しました。

(1) 企業結合の概要

① 被取得企業の名称及びその事業の内容

被取得企業の名称 株式会社スタジアム

事業の内容 営業支援、ビジネスプロセスアウトソーシング、Webサービス・アプリ・システムの企画・開発・販売の事業企画・運営

② 企業結合を行った主な理由

デジタル・DX商材の販売拡大に知見を持つスタジアムをエクサウィザーズのグループに迎えることで、当社の既存や新規のプロダクトを幅広い顧客に提供するための体制を整備し、協業や相互送客の推進でさらなる事業成長を目指しているため。

③ 企業結合日

2023年6月30日

④ 企業結合の法的形式

株式取得

⑤ 結合後企業の名称

変更ありません。

⑥ 取得した議決権比率

100%

⑦ 取得企業を決定するに至った主な根拠

当社が現金を対価として株式を取得したためであります。

(2) 四半期連結累計期間に係る四半期連結損益計算書に含まれる被取得企業の業績の期間

貸借対照表のみを連結しているため、当第1四半期連結累計期間には被取得企業の業績は含まれておりません。

(3) 被取得企業の取得原価及び対価の種類ごとの内訳

取得の対価	現金	2,700百万円
取得原価		2,700百万円

(4) 主要な取得関連費用の内容及び金額

アドバイザー費用等 3百万円

(5) 発生したのれんの金額、発生原因、償却方法及び償却期間

① 発生したのれんの金額

2,284百万円

なお、上記の金額は、当第1四半期連結会計期間末において、企業結合日における識別可能な資産及び負債の特定並びに時価の算定が未了であり、取得原価の配分が完了していないため、四半期連結財務諸表作成時点において入手可能な合理的情報に基づき暫定的な会計処理を行っております。

② 発生原因

今後の事業展開によって期待される超過収益力であります。

③ 償却方法及び償却期間

効果が発現すると見積もられる期間で均等償却する予定であります。なお、投資効果が発現する期間については、現在精査中であります。

(6) 企業結合日に受け入れた資産及び引き受けた負債の額並びにその主な内訳

現時点では確定しておりません。

(重要な後発事象)

(子会社の設立)

当社は、2023年8月14日開催の取締役会において、2023年10月2日を効力発生日(予定)として、当社の生成AIプロダクトに関する事業の権利義務を、新設分割により設立する当社の完全子会社である新設会社、株式会社Exa Enterprise AIに承継することを決議しました。

1. 設立の目的

当社は本件新設会社を通じて、当社の生成系AIを活用したプロダクト群について、企画・開発販売をより迅速かつ柔軟に行う基盤の構築を推進し、中長期的なAIプロダクト事業の拡大の基盤を整備するとともに、日本企業全体の生産性向上という社会課題の解決に向けてより強力に事業展開を行うことを目的としております。

2. 新会社の概要

- (1) 名称：株式会社Exa Enterprise AI
- (2) 所在地：東京都港区東新橋一丁目9番2号
- (3) 事業内容：生成AI等のテクノロジーを利活用したプロダクト・サービス等の企画・開発・販売による企業の生産性の向上
- (4) 資本金：300百万円(資本準備金含む)
- (5) 設立年月日：2023年10月2日(予定)
- (6) 出資比率：当社100%